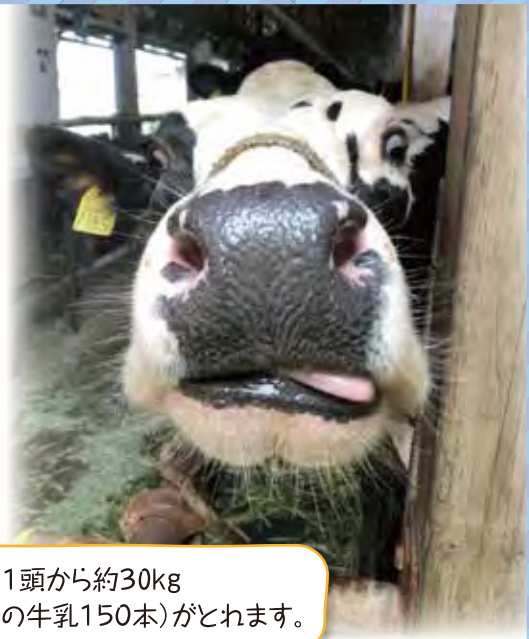


# らくのう 酪農レポート in 2018

緑区下大和田町で酪農を営んでいる石井さんご夫妻に取材させていただきました。

## 酪農家の1日のスケジュール

6～9時：牛舎の掃除、えさやり、搾乳  
 17～19時：牛舎の掃除、えさやり、搾乳  
 ※搾乳には、1時間半かかります。  
 朝と夕方の2回搾乳し、2回分の生乳がタンクローリーで運ばれます。



## 何人で何頭の牛を飼育していますか？

3人で40頭の牛を飼育しています。



1日に1頭から約30kg  
 (給食の牛乳150本)がとれます。

## 気を付けていることはなんですか？

牛の体調管理です。えさの食べる量、反すう回数などを注意して観察します。  
 牛は暑さに弱い動物です。暑いと食べる量が減り、産乳量が減ります。  
 そのため、夏場は牛舎にある大きいせん風機18台を動かし、室温を管理します。  
 また、牛の体を冷やすため、一頭ずつ後頭部にミスト(細かい霧状の水)を当てて体温を下げています。  
 発情期の見きわめも大切です。牛が健康でないと、妊娠、出産、搾乳ができません。  
 牛が病気になると、夜中もつきっきりで様子を見守ります。

牛の健康管理が大事です。



夏はミストで  
 熱中症予防

## 仕事へのこだわりポイントはありますか？

おいしい牛乳をつくることです。おいしい牛乳をつくるには、えさのバランスが大切です。  
 えさは、3～4種類の牧草と、トウモロコシ、大豆、ビートパルプ、綿実などです。  
 牛乳の成分は季節により変わるので、牛の体調をみながら、季節によってえさの配合を変えています。

## 搾乳して子牛に影響はないのですか？

2週間は子牛に母乳を飲ませます。  
 それ以降、子牛は粉ミルクを飲んで成長し、徐々に代用乳や柔らかい牧草などの固形物を食べ始め、生後40～50日で離乳します。



体重は約600kg  
 えさを1日25kg食べるよ。

1年に1度、子牛を産み、  
 牛乳が搾れるようになるよ。

## ～乳牛の一生～



次の出産に備え搾乳を  
 休む期間

牛さん、酪農家さん  
 ありがとう



めす牛が生まれ、育ち、妊娠、出産することで、子牛を育てるための母乳がとれるようになります。

酪農家の努力と牛のおかげでみんなの元に牛乳が届くのです。

取材協力：千葉酪農農業組合、酪農家 石井敏明さん